身障者アスリートが競技に取り組む意味とは何か
―葛藤体験に着目して―

大槻優希（スポーツ学研究科　競技スポーツ系　スポーツ情報戦略分野）
主査　豊田則成（指導教員），副査　金森雅夫，林綾子

What in the Meaning of athlete with physical disabilities perform to sport
-Focus experience of conflict-

Yuki Ohtsuki

キーワード：身障者，競技，葛藤，複線径路・等至性モデル
Keyword：physical disabilities，sport，conflict，Trajectory Equifinality Model(TEM)

緒言

本研究の関心事は，身体障害者（以下，身障者）アスリートが競技に取り組む意味を質的に検討することにある．よって，身障者アスリートの葛藤体験に着目をすることとし，「身障者アスリートは葛藤をどのように語るのか」というリサーチ・クエスチョン（Research Question：以下 RQ）を設定した．その後，発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出し，スポーツ現場への有効な提言を為すことを目的とした．

方法

調査対象：身体障害者陸上競技団体に所属する身障者アスリート（肢体不自由者）6 名（男性 5 名，女性 1 名）．

調査期間：20XX 年 7 月上旬～8 月下旬．

調査方法：半構造化インタビュー（1 人につき約 1 時間半程度）を実施し IC レコーダーに録音し発話データとした．

分析方法：逐語した発話データを複線径路・等至性モデル（Trajectory Equifinality Model）を参考に分析を行った．

結果と考察

上記の RQ の下，質的にアプローチをした結果,「身障者アスリートの葛藤体験プロセス」（fig.1）を生成した．そこでは，**身障者アスリートは葛藤を「自己の身体に対する〈不安〉に伴う葛藤と自己の身体に対する〈期待〉に伴う葛藤の 2 段階を体験する」と語る**という仮説的知見を導き出した．更に，付加的な知見として，1)『自己の身体の実感』と『自己実現への不安』との間で葛藤をする，2）自己の身体に対する〈不安〉に伴う葛藤をし，できないことを受け入れる，3)『自己の身体の実感』と『自己実現への期待』との間で葛藤をする，4）自己の身体に対する〈期待〉に伴う葛藤をし，取り組む気持ちが高まる，5）身体の実感を中心に据えて不安と期待の間で葛藤をする, 6）葛藤を体験することで身体の捉え方を変化させている, 7）身体の捉え方を変えることによって自己実現の実感を得る，の 7 点が挙げられた．

総括

上記の考察から，**身障者アスリートが競技に取り組む意味とは，「現在の自己を受け入れ，自己実現の実感を得るため」**であるということを読み取ることができた．以上のことから，下記の 4 点を現場への提言とする．

①できそうなことに目を向ける
②できる実感を得ようとする
③「不安」と「期待」に視点を置いて考える
④自己実現をする姿を明確に描く

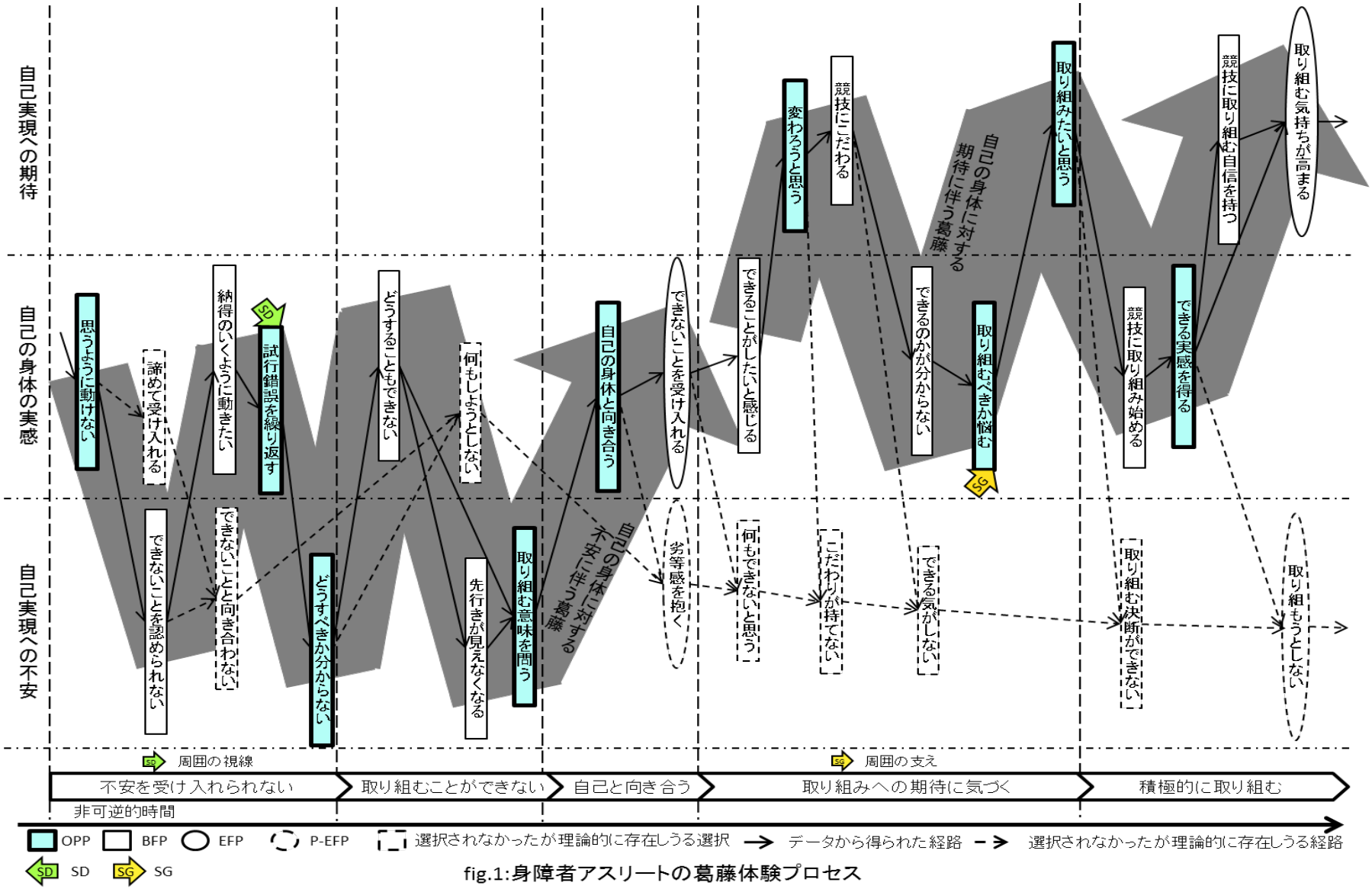

fig.1:身障者アスリートの葛藤体験プロセス